



真飛聖

木場勝己

櫻井章喜

本折最強さとし

大鶴佐助

長井短

村川絵梨

安井順平

高橋努

峯村リエ

シルビア・グラブ

成海璃子

仲村トオル

出演：藤原竜也

演出：長塚圭史

作：前川知大

大阪

2017年8月31日(木) ～ 9月5日(火)
森ノ宮ピロティホール

〔チケット一般発売日〕

2017年7月2日 (日) 10:00am～

〔チケット料金 (全席指定・税込) 〕 11,000円

〔チケット取り扱い〕

■ チケットぴあ

0570-02-9510 (発売日初日特電 / 10:00～23:59 / Pコード不要)
0570-02-9999 (7/3以降 24時間・音声自動応答 / Pコード:459-033)
<http://w.pia.jp/t/player/> (PC・スマホ・携帯共通)

■ ローソンチケット

0570-084-654 (発売日初日特電 / 10:00～23:59 / Lコード不要)
0570-084-005 (7/3以降 24時間・音声自動応答 / Lコード:51701)
0570-000-407 (7/3以降 10:00～20:00 / オペレーター対応)
<http://l-tike.com/player/> (PC・スマホ・携帯共通)

■ CNプレイガイド

0570-08-9901 (発売日初日特電) 0570-08-9999 (7/3以降)
<http://www.cnplayguide.com/player/>

■ イープラス

<http://eplus.jp/player/> (PC・スマホ・携帯共通)

■ 森ノ宮ピロティホール 窓口販売のみ

〔主催〕 MBS／サンライズプロモーション大阪

〔お問合せ〕 キョードーインフォメーション 0570-200-888 (10:00～18:00)
<http://www.kyodo-osaka.co.jp/>

※東京公演に限り、一般発売日初日のみ1回の受付に付き4枚までの枚数制限がございます。
※一般発売日以降は残席がある場合のみ取扱いたします。
※0570で始まる電話番号は一部の携帯電話・IP電話・CATV接続電話・PHSからはご利用できません。
※音声自動応答での受付番号は、ダイヤル回線からのご利用はできません。
※車椅子スペースには限りがございます。車椅子でご観劇のお客様は座席指定券をご購入のうえ、お早めに各会場のお問合せ先へご連絡ください。
また、お座席でご観劇の場合も当日スムーズにご案内をさせていただくため、公演日前日までにご購入席番を各会場のお問合せ先へご連絡ください。
※未就学児童のご入場はご遠慮いただいております。
※営利目的でのチケットのご購入ならびに転売は固くお断りいたします。

〔東京〕

2017年	8/4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
	金	土	日	月	火	水	木	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00				●	休		●	●	●	●	●	休		●	●		●	●	休		●	●		●	●
19:00	●	●		演	●	●			●		演	●	●		●	●		演	●	●		●	●		

東京

2017年8月4日(金) ～ 8月27日(日) Bunkamura シアターコクーン

〔チケット一般発売日〕

2017年6月3日 (土) 10:00am～

〔チケット料金 (全席指定・税込) 〕 S席:10,500円 A席:8,500円 コクーンシート:5,500円

※コクーンシートは、特にご覧になりにくいお席です。ご了承のうえ、ご購入ください。

〔チケット取り扱い〕

■ Bunkamuraチケットセンター (10:00～17:30／オペレーター対応)
03-3477-9912 (発売日初日特電) 03-3477-9999 (6/4以降)

■ オンラインチケットMY Bunkamura (要事前登録)
<http://my.bunkamura.co.jp> (PC・スマホ共通 / 座席選択可能)

■ Bunkamuraチケットカウンター (Bunkamura1F 10:00～19:00)
東急シアターオーブチケットカウンター (渋谷ヒカリエ2F 11:00～19:00)
※発売日初日の取扱いはございません。

■ チケットぴあ

0570-02-9922 (発売日初日特電 / 10:00～23:59 / Pコード不要)
0570-02-9999 (6/4以降 24時間・音声自動応答 / Pコード:457-956)
<http://w.pia.jp/t/player/>
(PC・スマホ・携帯共通 / PC・スマホは座席選択可能)
セブン-イレブン (24時間 毎週火・水曜日の1:30AM～5:30AMを除く)、
サークルK・サンクス (朝5:30～深夜2:00)、
チケットぴあ店舗 (営業時間は店舗により異なる)

〔大阪〕

8/31	9/1	2	3	4	5	9	10
木	金	土	日	月	火	土	日
		●	●			●	●
				●	●		
		●				●	
●	●						

〔静岡〕

■ イープラス

<http://eplus.jp/player/> (PC・スマホ・携帯共通 / PC・スマホは座席選択可能)
ファミリーマート各店舗 (店内Famiポート直接購入・座席選択可能)

■ ローソンチケット

0570-084-633 (発売日初日特電 / 10:00～23:59 / Lコード不要)
0570-000-407 (6/4以降 10:00～20:00 / オペレーター対応)
<http://l-tike.com/player/> (PC・スマホ・携帯共通 / PCは座席選択可能)
ローソン・ミニストップ各店舗 (店内Loppi直接購入 / Lコード: 32853)

〔チケットに関するお問合せ〕

Bunkamuraチケットセンター 03-3477-9999 (10:00～17:30)

〔主催／公演に関するお問合せ〕 Bunkamura 03-3477-3244 (10:00～19:00)
<http://www.bunkamura.co.jp/>

静岡

2017年9月9日(土) ～ 9月10日(日)
静岡市民文化会館・中ホール

39+40
静岡朝日テレビ

〔チケット一般発売日〕

2017年6月18日 (日) 10:00am～

〔チケット料金 (全席指定・税込) 〕 S席:10,500円 A席:8,500円

〔チケット取り扱い〕

■ あさひテレビチケットセンター <https://satv.tstar.jp/cart/events/10963>

■ チケットぴあ

0570-02-9511 (発売日初日特電 / 10:00～23:59 / Pコード不要)
0570-02-9999 (6/18以降 24時間・音声自動応答 / Pコード:458-848)
<http://w.pia.jp/t/player/> (PC・スマホ・携帯共通 / PC・スマホは座席選択可能)

■ ローソンチケット

0570-084-641 (発売日初日特電 / 10:00～18:00 / Lコード不要)
0570-084-004 (6/18以降 24時間・音声自動応答 / Lコード:41437)
0570-000-407 (6/18以降 10:00～20:00 / オペレーター対応)
<http://l-tike.com/player/> (PC・スマホ・携帯共通 / PCは座席選択可能)

■ イープラス <http://eplus.jp/player/> (PC・スマホ・携帯共通 / PC・スマホは座席選択可能)

■ セブンチケット セブン-イレブン店内マルチコピー機

■ YOU創企画 053-422-5182 (18:00～20:00)

〔主催〕 静岡朝日テレビ

〔共催〕 静岡市民文化会館 指定管理者 静岡市文化振興財団共同事業体

〔後援〕 静岡県

〔お問合せ〕 静岡朝日テレビ 054-251-3302 (平日10:00～18:00)
<http://www.satv.co.jp/0500event/>



プレイヤー

作..前川知大

演出..長塚圭史

出演..藤原竜也

仲村トオル

成海璃子

シルビア・グラブ

峯村リエ

高橋努

安井順平

村川絵梨

長井短

大鶴佐助

本折最強さとし

櫻井章喜

木場勝己

真飛聖

作:前川知大
(まえかわ・ともひろ)

「約10年前に上演し、いつかもう一度やりたいと思っていた戯曲『PLAYER』。ここに描いたある種の気持ち悪さや不気味さを長塚さんが面白がってくださり、新たな構造を加えてまたお客様に観ていただけることになりました。前とはまた別の角度で立ち上がる舞台を、僕自身、楽しみにしています。」



演出:長塚圭史
(ながつか・けいし)

「演出家脳/作家脳を持つ二人が、お互いの領域を邪魔しないようにしつつもさまざまな意見を交換し合い、複眼的に作品に向かう豊かな打ち合わせを経ました。すでに刺激的な創作プロセスが始まっており、大きな手応えを感じています。」



ともに劇作家・演出家として活躍している長塚圭史と前川知大。演劇界の次代を担うこの二人の共同制作が、初めてシアターコクーンで実現いたします！
本作の制作にあたり、1年以上にわたる打ち合わせを重ねてきた二人。長塚が今、演出家として興味を持っていることと、前川が好んで書き、今回の戯曲に盛り込もうと思っていた表現方法が奇しくも合致。それぞれ独自の世界を築いてきた同世代の二つの才能が出合い、どのような舞台が生まれるのか。

本作の基になるのは、2006年に前川が全作品の作・演出を手掛ける劇団「イキウメ」で初演された戯曲『PLAYER』。謎の死を遂げた女性が生者を通じ、死後の世界から語りかける——。死者の声が、選ばれし者(Playa)の身体を利用して再生(Play)されるというサイコホラーは話題を呼び、チケット入手困難な公演となりました。

ふたりが組む作品にと前川が提案したこの戯曲『PLAYER』に触発された長塚は、ハ生者が死者の再生装置となっていく戯曲『PLAYER』を、ハ俳優たちが劇作家の言葉を再生する「Play」を重ね、より大きな物語として構成できないかと構想。戯曲『PLAYER』を劇中劇として取り込んだ全く新しい作品『プレイヤー』が誕生いたします。

プレイヤー

記憶という死者を、再生する

ストーリー

舞台はある地方都市の公共劇場、そのリハーサル室。国民的なスターから地元の大學生まで、様々なキャリアを持つ俳優やスタッフたちが集まり、演劇のリハーサルが行われている。演目は新作『PLAYER』。幽霊の物語だ。死者の言葉が、生きている人間を通して「再生」されるという、死が生を侵食してくる物語。
物語は劇中劇と稽古場という二つの人間関係を行き来しながら進んでいく。死者の言葉を「再生」すること、戯曲に書かれた言葉を「再生」することが重なる。単なる過去の再生ではなく、今を生き始める死者と、戯曲の言葉に引き寄せられ、アドリフで新たな言葉を紡ぎ出す俳優が重なる。
演じることで死者と繋がった俳優達は、戯曲の中の倒錯した死生観に、どこか感覚を狂わされていく。生と死、虚構と現実の境界が曖昧になっていく。

【スタッフ】美術:乗峯雅寛 照明:齋藤茂男 音響:加藤温 衣裳:十川ヒロコ ヘアメイク:鎌田直樹 演出助手:須藤黄英 舞台監督:足立充章

宣伝美術:荒井康豪 宣伝写真:細野晋司 宣伝スタイリスト:森保夫 宣伝ヘアメイク:鎌田直樹 宣伝広報:ディップス・ブラネット

いつか書かれた言葉を口にすること
記憶という死者を蘇らすこと
その再生装置
プレイヤー